

(二)船場川 姫路競馬場 洪水調節池 だより

第8号
平成29年7月25日
兵庫県中播磨県民センター
姫路土木事務所

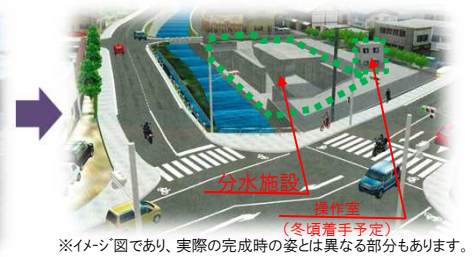
01 船場川から分水するための土木施設の建設作業に着手しました！

「軍人橋北交差点」東側の船場川左岸側で、分水施設(現場打ち鉄筋コンクリート構造物)を建設するために、「矢板切梁土留工法」により、地盤面を掘削するための作業に着手しました。狭い作業エリアで、地上面から地下深くまで土を掘っていく工事では大変有効です。次号からは、現地工事の進展状況を、リアルタイムで紹介していく予定です。

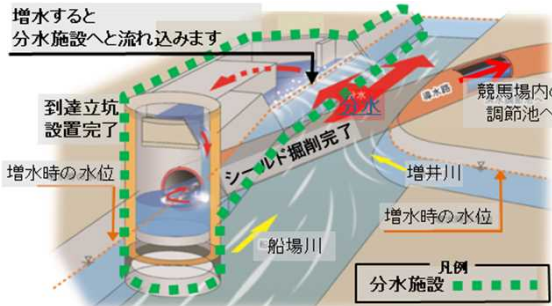
現場状況(H29年6月時点)



完成時のイメージ



分水施設のしくみ



矢板切梁土留工法

周辺の土が崩れてこないように、「鋼矢板」や「H型鋼」と呼ばれる鋼材を組合せて支えあうことにより、周辺へ影響を与えることなく、地中方向へ掘削していくことができます。

一般的な掘削断面 「鋼矢板」と「H型鋼」の一般的な組合せ 他事業での採用事例

02 シールド掘削機が到達立坑へ無事に到達しました！

昨年の11月初旬に姫路競馬場からスタートしたシールド掘削機が、6月末に軍人橋北交差点近くの到達立坑(建設済み)に到達しました。今後、地下導水トンネルへと仕上げていくために、掘削部分の内面整備等に進んでいきます。

製作直後のシールド掘削機(H28年9月) 到達立坑へ顔を見せたシールド掘削機(H29年6月末)



途中、トラブルに遭遇しながらも、その都度克服し、約570mの距離を掘りぬきました。



役割を見事に達成してくれて、ありがとう！！

これなあに？ 今月の「工事現場から」

今回は、本工事現場でも採用している「矢板切梁土留工法」等、今や建設業界では、一般的になっている土留め工のルーツについて、そのいくつかをご紹介します。

土留め工の歴史は大変古く、稲作と同時に始まったと言われており、弥生時代には、集落の形成に合わせ、水路や水田等の整備に木材を用いた土留め工が行われていました。

また、大正時代には鋼材の輸入がはじまり、昭和に入ってから鋼材を用いた矢板が製造され、鋼矢板による土留め工の需要が高まり、現在に至っています。

菜畑遺跡(水田の遺跡)(弥生時代頃)



(出典:佐賀県ホームページ)

大阪地下鉄の建設現場(S6年頃)



■船場川のある風景■

河口部の国道250号線のすぐ南側に架かる「思案橋」の由来！

この場所で「誰が何を思案」されたのか…
901年、菅原道真(845年～903年)が船で、左遷(位などを下げる)された九州の大宰府に向かう途中、播磨の近くで嵐にあい上陸した際、さてこれから海を行くか、それとも陸に変えるか悩み考えたことから名づけられたそうです。
これ以外にも、山部赤人がこの場所で思案(詠歌)された出来事等もあります。

「思案橋」を眺めながら河口方向を撮影 (姫路市飾磨区思案橋)

平成29年6月26日撮影



菅原道真

ほのぼのと 津田の細江の 水尾つくし まだ夜は深き 月の入り汐

山部赤人

風吹けば 波か立たむと さもらひに 都太の細江に 浦隠り居り